

# 世間解

第三九四号

令和二年十二月

発行 西法寺

## 念仏もうさるべし

―学仏大悲心（仏の大悲心を学ぶ）―

令和二年も過ぎようとしています。皆さまには様々なご縁の中に、ご本願の念仏ご相続の事と存じます。

お念仏を称え、お念仏が届いてくださっているという事は、阿弥陀さまの本願に包まれている事であり。ご往生くださった方々が阿弥陀さまと一緒に私を願う続け支え続けてくださっている事でもあります。

さて、歳の暮れも梯 實圓和上の西法寺でのご法話をお聞かせいただきます。くり返し、くり返しご聴聞ください。

『…あ、今夜帰ってね、仏さんにお参りしなはるやろ、お参りしなはたらね、ちよつと一言言いなはれ。』「仏さま、私は今度お浄土へ生れるんですかどうですか？」って聞いてみなはれ一遍。阿弥陀さんどない言いはるか聞いてみなはれ必ず聞くんぞせ。ほしたらどないおっしゃるか、…。

しかしそこでね、はっきり聞こえてくるのは南無阿弥陀仏という声が聞こえてくるはずだ。聞こえななら称えなはれ。称えたら聞こえるだろう。なんぼ耳が遠いからってね、わしも耳が大概遠いんやけど、自分で言うてる声は聞こえますよ。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏っていうたらお念仏の声は聞こえるわ。これは仏さまが、「必ずたすけるぞ、安心しなさいや、私に任せなさいよ」ところおっしゃってくださいさっている声なんです。これまあ、そう気がついていたらありがとうごさいますと言ったらええわ。気がつかんたら、黙ってたすけてくれるわい。たすけるって言うてくれてはんねんから、黙ってたすけてくれるわい。そうでしょ。信心いうのは、私がしっかりすることちゃいまっせ。しっかりできるものと違うがな。先ほど言いましたようにあなた、いつ気がつかんようになつてしまうか分からへんで。しっかりしなはれて、「しっかりせよと抱き起

し」ってのは（戦友）っていう歌の文句だったらあるだろうけど、あれはしっかりしてるんだったら、抱き起こすことはないでしょう。抱き起こしてもらわんとあかんようになったときは、しっかりできんわ。しっかりできんようになったら介抱してくれる者がしっかりするしかないだろう。

ほんなら、へしっかりせよ」とは仏さまがおっしゃることじゃないでしょ。

仏さまは「私がしっかりしてるから心配すんな、おれにまかせとけ」っておっしゃってるんですよ。だから、「ありがとうございます」と言えたら言いなはれ。言えないんだったらしゃーない。しゃーないけど、任しといたらええ。これがまかせるといことだ。だから、如来さまから「まかせよ」。それがね、「御たすけ候へ」とたのみまふして候う」ってのは、たすけてやるぞとおっしゃいますから、左様ならば、「御たすけ候へ」。こう日本語補っておいたら分かるやろ。

そうおっしゃるならば、そこまでおっしゃるならば、あなたのお心のままにおまかせいたします、よろしく御願います。ただ、私は「ありがとうございます」でこれでしまいだ。向こうはたすけてやるぞとおっしゃっている、それが南無阿弥陀仏という言葉ですよ。

御開山はね、「撰取して捨てざれば、阿弥陀と名づけたてまつる」とおっしゃる。阿弥陀ちゆう名前って何ちゆうことですか。「おれが引き受けたから心配するな」という言葉が、あれが阿弥陀仏という言葉の意味なんだ。撰取して捨てないというのは、しっかりと抱きとって、絶対に見放すことがないから、安心して任せなさいとおっしゃる。左様ならば、おまかせいたしますと、如来さまにおまかせしている相を信心という。だからみなさんもね、『お領解文』あげるでしよ、「もろもろも雑行雑修 自力の二ころをふりすてて 一心に阿弥陀如来われらが今度の一大事の後生 御たすけそうらへとたのみもうして候う」、あの「御たすけ候へ」と、たすけてくださいませと仏さまにおまかせした、あれはまかせたことなんだ。たすけてくださいませと仏さまにおまかせした、すがったんなら俺がすがってるからな、手の力が無くなったら抜けてしまうで。しかし、たすけてやるって向こうが抱きかかえてるんだから、おれが手離したって大丈夫なんだ。…』 続きは次号で…どうぞよいお年を。 なるもあみだぶつ